



Contents

- 国内外の諸課題について
- 岸田文雄の全国行脚
- 宏池会が見据える未来



衆議院予算委員会において質問に立つ

宏池会が見据える未来 ～よりよきバランスをめざして～

“トップダウン”から“ボトムアップ”へ

“対症療法”から“持続可能性”へ

自律した個人、“個性・多様性を尊重する社会”へ

“K-WISH”

Kindな政治 権力に対するチェックアンドバランスを確保する。

国民の多様な声、異なる意見にも丁寧に耳を傾けるボトムアップの政治を行うとともに、国民目線にたつて霞が関の見える化・デジタル化を徹底し効率的で開かれた行政を実現する。

Warmな経済 大企業・中央偏重から、中小企業・地方が主役のボトムアップ型経済を実現する。

地域の中小企業に対する大企業・東京からの人材供給の円滑化や下請事業者を含むサプライチェーン内での付加価値の適正な配分、地域住民の生活に必要な不可欠な小規模事業者に対する面的支援を充実する。併せて、長期的視野に立ったインフラ整備、地域を支える農林水産業の徹底支援など、人・モノ・資金が地域で還流する仕組みを作る。

Inclusiveな社会 自律した個人、個性・多様性を尊重する社会へ。

「20年学び、40年働き、20年休む」戦後の画一的な人生モデルから、自律した個人による人生100年時代に相応しい多様な人生設計を前提とした制度づくり。人口減少社会にむけて、AI や IoT が大きな可能性を秘めていることを踏まえ「一億総クリエイティブ社会」を実現する。また、人種・国籍・性別・障害・性的指向(LGBT)に捉われず、ありのままに生きられる社会作りを推進する。

Sustainableな土台 真に持続可能な経済・財政・社会保障を実現する。

「過剰サービス・低価格競争」から脱却し、「高付加価値モデル」による持続可能な経済システムの構築。チルドレンファーストに基づく抜本的少子化対策、受益と負担のバランスのとれた医療介護の実現。また、世界をリードする低炭素社会を目指す。

Humaneな社会 平和憲法・日米同盟・自衛隊の3本柱で、平和を創る。

また、環境・人口減少など共通課題に対応する日中韓による「東アジアプラットフォーム」の構築、核軍縮、感染症対策などグローバル課題の解決を我が国が先導する外交を推進することにより、平和・民主主義・人権・発展をリードしていく役割を果たす。

岸田文雄後援会事務所

●国会事務所
〒100-8982 東京都千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1222号室
TEL (03) 3508-7279 (直通) FAX (03) 3591-3118

●広島事務所
〒730-0013 広島市中区八丁堀6-3
和光八丁堀ビル9階
TEL (082) 228-2411 (代表) FAX (082) 223-7161

●岸田文雄ホームページ
<http://www.kishida.gr.jp/>

ケータイ用サイトQRコード



岸田文雄プロフィール

昭和32年生まれ。早稲田大学法学部卒業後、(株)日本長期信用銀行等を経て、平成5年の衆議院議員総選挙において初当選。以後9期連続当選中。

自民党青年局長・商工部会長・経理局長、建設政務次官・文部科学副大臣、衆議院厚生労働委員長などを歴任後、平成19年の第一次安倍改造内閣において内閣府特命担当大臣(沖縄担当など)で初入閣。初代消費者行政推進担当大臣として消費者庁新設の土台を作る。

平成23～24年にかけて党国会対策委員長として国会最前線で指揮をとり、与党に対して厳しい国会追及を行い、解散に追い込む。

平成24年には保守本流の政策集団である「宏池会」の会長に就任する。

平成24年発足の第二次安倍内閣において外務大臣として入閣。以降4年8ヶ月の長期間外務大臣を務め、その間オバマ米国大統領広島訪問などを実現させ、連続期間・専任期間としては戦後最長の記録を立てる。また憲政史上初の外務大臣と防衛大臣を兼務。

平成29年自民党政務調査会長に就任。党の政策責任者として大きな期待と責任を担う。

岸田文雄フェイスブック

www.facebook.com/kishdafumio

日々の活動写真を中心に更新しています



岸田文雄の全国行脚

岸田文雄は自民党政調会長として、自民党支部の大会への出席や、自民党や宏池会の議員の会、また講演会などに出席するため、全国を飛び回っています。特に岸田文雄はいま最も注目されている国会議員のひとりであり、各地から多くの出席依頼を受けています。



5/12(土) 栃木県

5月・6月の地方への動き

5/12(土)	栃木県
5/18(金)	大阪府
5/19(土)	北海道
5/20(日)	高知県
5/26(土)	佐賀県
5/27(日)	三重県
5/28(月)	静岡県
6/2(土)	島根県
6/3(日)	長崎県
6/11(月)	大阪府
6/16(土)	鹿児島県
6/23(土)	福島県



5/20(日) 高知県



6/23(土) 福島県



6/2(土) 島根県



5/26(土) 佐賀県



5/27(日) 三重県



6/3(日) 長崎県



5/28(月) 静岡県



6/11(月) 大阪府



6/16(土) 鹿児島県

国内外の諸課題について

自由民主党政務調査会長 衆議院議員 岸田文雄

いま日本外交においての直近の課題は、今年に入って大きく変化しました、北朝鮮の問題です。金正恩委員長の下での体制は6年続いているわけですが、その間に核実験4回が行われ、弾道ミサイル55発が発射されています。金正恩委員長の父親の金正日委員長時代には16年間で核実験2回、ミサイル16発だったことを考えると、挑発行為がエスカレートしていると言えますし、また親族の粛正や暗殺などが疑われるなど、何をやるのか分からない体制という不安の中にあつたのが、北朝鮮問題における去年のありようでした。

しかし今年に入り北朝鮮は、テレビの前での姿を見るとこれほど変わったのかと思うような微笑み外交を展開し始めました。北朝鮮の歴代指導者にとつては、アメリカのトップと直接交渉し、自らの体制を保証させることは宿願であり、今回の米朝会談は3代にわたる宿願が達成された形となり、北朝鮮にとつて歴史的会談だったことは間違いないと言えるでしょう。

日本にとつてはこれらの取り組みを通じて、核ミサイル問題や拉致諸懸案の解決に期待したいと思いますが、しかし現状はまだ動いていないということは決して忘れて

はなりません。約束だけなら今まで何度も行ってきたわけです。現実が動いていないのに制裁緩和などの前のめりな動きが報じられていますが、こうした動きは逆に心配しなければならぬし、例えば拉致問題を考えるなら直接交渉も考えていかなければならないなど、何より日本がどう関わっていくかを考える必要があります。日本に届くミサイルだけで5000〜6000発もあり、日本にとつてこの問題をどう解決するのか、日本として直接交渉する場面があるのではないかと、状況によつて日朝首脳会談を考えなければならぬのではないかなど、課題は山積しています。この様々な動きの中、日本外交の底力が試されています。

国内問題においては、経済の活力維持などさまざまな課題がありますが、日本の未来を考えれば、中長期的課題にも取り組まなければなりません。その一つのキーワードは「持続可能性」です。

たとえば財政、先進国最悪といわれている財政についてどう考えるかです。このままいくと破綻するかどうかという議論もありますが、その前に予算の柔軟性を考える必要があるのではないのでしょうか。現状にお

いても100兆円近い予算を組んだとしても、4分の1は返済や利払いに充てなければならず、今年度も33兆円借金しましたし、今のままマイナス金利時代が続くとは限らず、もし金利が上がると利払いはますます膨らんでいきます。子や孫の時代になった時には、予算を組みたいと思つても、今のままだと半分以上が返済利払いに充てなければならぬ兼ねません。不透明な国際社会で生きていくために、次の世代の予算の可能性や柔軟性、選択肢を狭めてしまったままでよいのでしょうか。

あるいは社会保障。人口が減少する中で社会保障の持続可能性を考えなければなりません。

社会の持続可能性。一昔前の日本は1億総中流と言われていましたが、今や7人に1人子どもは貧困にあると言われてる中であつて、所得の格差が教育の格差を生

み、教育の格差が所得の格差を再生産する負の連鎖が始まっていると指摘されています。社会の持続可能性も考えなければなりません。

また地方。人口が減少する中であつて、地方自治体が存続できないのではないかと指摘が行われ、大きなショックが走りました。

外交の持続可能性。国際社会では今、自国第一主義が声高に叫ばれています。島国で資源がなく、人口も減少していく中で日本はどう生きていくのか、外交の持続可能性が問われています。

北朝鮮の問題、経済の問題など、目の前の重要な課題と同時に、持続可能性というキーワードで中長期課題にも取り組まないといけないのが、今の政治に課された責任だと考えます。



自民党人生100年時代戦略本部